



## 第2回「おたる案内人」マイスター 検定試験問題

2009年5月17日

小樽観光大学校

\*合格発表は下記のホームページでご確認できます。  
\*URL:<http://www.otaru-kd.com>

各設問で選択問題は1～4の番号で、また記述問題は決められた字数で解答用紙に記入しなさい。(制限時間120分)

問1

小樽観光への需要が盛り上がる背景で日本の高度経済成長が大きな要素となっていましたが、高度経済成長がすすめられた年代は次のどれでしょうか。

1. 戦後～昭和30年代
2. 昭和30年代～40年代
3. 昭和40年代～50年代
4. 昭和50年代～60年代初頭

問2

小樽観光への動機を全国の人々に与えたのは「運河保存運動」といわれていますが、小樽において「運河論争」が繰り広げられた年代は次のどれでしょうか。

1. 戦後～昭和30年代
2. 昭和30年代～40年代
3. 昭和40年代～50年代
4. 昭和50年代～60年代初頭

問3

今日の観光のケースにはこれまでの「名所観光」「温泉観光」のほかに多様化したケースが誕生しています。小樽観光は「まちづくり観光」と呼ばれていますが、「まちづくり運動」と「観光」の関係で正しいのは次のどれでしょうか。

1. 観光振興のためにまちづくり運動がある
2. まちづくり運動と観光は関係ないがたまたま時期が一緒
3. まちづくり運動の中に文化振興や観光振興がある
4. 運河保存運動以外のまちづくり運動は観光にはなんの関係もない

問4

小樽市指定歴史的建造物となっている建物で、再利用された事例で時期が一番新しいのは次のどれでしょうか。

1. 小樽バイン(旧北海道銀行)
2. 北一硝子三号館(旧木村倉庫)
3. 田中酒造亀甲蔵(旧岡崎倉庫)
4. 花ごころ(旧安田銀行)

問5

道外からの観光客は小樽に何を求めて来るのでしょうか。次の中から上位3つを選びなさい。

1. 運河と歴史的景観
2. 異国情緒
3. 文学・美術
4. ガラス・オルゴール
5. 食べ物
6. 温泉
7. 自然
8. マリンレジャー
9. スキー

問6

道外からの観光客はどのような手段で小樽に来るのでしょうか。次の中から上位3つを選びなさい。

1. 列車
2. フェリー
3. 自家用車
4. レンタカー
5. 定期観光バス
6. 貸切バス

問7

平成15年10月から16年9月までの小樽の年間観光総消費額は次のどの程度でしたか。

1. 2,668億円
2. 1,319億円
3. 1,858億円
4. 737億円

(※問5、問6、問7は平成16年9月 小樽市経済部観光振興室「観光基礎調査報告書」からの出題です。)

問8

アジアは近年「世界の成長センター」と呼ばれる程に経済成長を遂げています。この急速な発展を実現させた大きな要因は次のどれですか。

1. 社会主義
2. 雁行型経済発展
3. 外資導入政策
4. 経済特別区

**問9**

大正時代の小樽は港湾都市、経済都市として発達しました。これを示す当時の資料（大正14年 函館商業会議所）によると、上位20位内に北海道の三都市が含まれています。この三都市を上位から順（左から右）に正しく並べたものを選びなさい。

1. 函館—小樽—札幌
2. 小樽—函館—札幌
3. 小樽—札幌—函館
4. 函館—札幌—小樽

**問10**

江戸時代末期、オタルナイを含む石狩湾の海岸線に和人の集落ができていきます。これらの集落が生まれる契機となった事象でもっとも適切なものを選びなさい。

1. 寛文9年（1669）のシャクシャインの戦いによる和人勢力の東進
2. 享保年間（1710年代）の岡田弥三右衛門によるオタルナイの場所請負開始
3. 寛政4年（1792）のラクスマン根室来航による蝦夷地警備のための出兵
4. 安政2年（1855）の西蝦夷地の幕府直轄化（第二次）実施による

**問11**

クロフォードが建設した馬車道は短期間ではありましたが、最初の公共交通機関である官設の駅通馬車が設けられました。またここでは黒田清隆の意向を受けウラジオストクをモデルにした交通システムが導入されました。それは次のどれでしょうか。

1. 雪馬車（馬橇）
2. 馬車鉄道
3. 犬ぞり
4. 外輪船

**問12**

松前藩は重臣達に領地ではなく、交易の場としての「商場」を知行として与えていた点で、他の大名家と異なる性格を有していました。オタルナイ場所も藩の重臣に知行として与えられていましたが、次のうち知行主として正しい人物はだれですか。

1. 氏家唯右衛門
2. 八木勘右衛門
3. 岡田弥三右衛門
4. 山田吉兵衛

**問13**

（ ）内に当てはまる語句を選びなさい。

ホスピタリティ・マネジメントにおいて、その価値を提供する際にはブランディング、マーケティング、（ ）、ビジョン、アイデアをもって提供する。

1. ファイナンシャル
2. フィロソフィ
3. クリエイティビティ
4. ハート

**問14**

（ ）内に当てはまる語句を選びなさい。

サービスは賃金労働でありソーシャルなものであるのに対し、ホスピタリティは自分の資本である自己技術や自己能力を最大に使う行為であり（ ）なものであるように、類似していることのように捉えがちであるが、実は対極的である。

1. グローバル
2. ホリスティック
3. トレンディ
4. パブリック

**問15**

（ ）内に当てはまる語句を選びなさい。

ホスピタリティは統計化されるデータではなく、一人ひとりの情報を集積・整理し活用するという（ ）に応える高度なテクノロジーである。

1. 分析
2. プライベート化
3. マーケティング
4. 快楽

**問16**

（ ）内に当てはまる語句を選びなさい。

小樽観光における「おたる案内人・マイスター」のブランディングには必要な要素6Pとして、プリンシプル、プロダクト、プライス、プレイス、プロモーション、（ ）で創りあげる。

1. プロセス
2. プレジャー
3. パートナー
4. ピープル

**問17**

散策ガイドを行う場合の心得として正しいと思われる項目を次の中から一つ選びなさい。

1. 笑顔は大切な要素であるが、時にはお客様と真剣に討論する事も良い。
2. 清潔な身だしなみでお客様と同様の目立たない服装が好ましい。
3. 散策しながら聞いて良かったと思われるガイドを心掛ける。
4. 地元の良さを強調し、お国自慢話を中心にガイドをするよう心掛ける。

**問18**

小樽運河浅草橋上でガイドしています。正しい項目を一つ選んでください。

1. この浅草橋の次に見えます橋は中央橋で小樽駅から中央通りを降りてきた位置になります。その先には龍宮橋と北浜橋が有り、小樽運河には4ヶ所に橋が架かっています。
2. 小樽の運河は大正3年に着工し同12年に完成しました。現在は全長が1,140m巾は20mで運河北部は巾40m有り、運河北端部に接岸している小さく見える船は舳です。
3. 運河左側臨港線沿いに4階建ての白壁で窓枠がU字型にデザインされている通信電設浜ビルは小樽市指定の歴史的建造物です。建物の正面は左右対称の形になっていて、出入口の欄間は幾何学模様を描いております。
4. 小樽運河散策路はサイコロ状の御影石が、イチョウ模様を描いて埋め込まれています。又、欄干は小樽市指定の花ツツジをデザインしたものです。

**問19**

ガイド実践のポイントとして次の中から正しいものを一つ選びなさい。

1. 散策ガイドの場合、立ち止まってガイドするより、歩きながらガイドするほうが良い。
2. マイクの音量は後方まで届いているか常に意識し、交差点の前後は使用しない。
3. お客様とのアイコンタクトに心掛け、時間とコースを守る。
4. ガイドは先頭に位置し案内するが、交差点横断時はお客様が全員渡るのを見届けて最後に渡る。

**問20**

通称、北のウォール街といわれる銀行街のあった色内通り交差点です。次の項目のうち正しいものを一つ選びなさい。

1. 現在、小樽運河ターミナルとなっている建物は旧三菱銀行小樽支店で1階正面には、ギリシャ・ローマ建築様式を表す6本の半円柱が並んでおり、3階建ての鉄筋コンクリート造りで大正11年に建てられました。
2. 山側交差点角にある鉄筋コンクリート4階建ての建物は旧第一銀行小樽支店で大正13年に建てられた小樽市指定の歴史的建造物です。設計者は東京帝国大学建築学科卒業の田辺淳吉で2年後に病死、同氏の遺作となりました。
3. 海側交差点角の現在ホテルヴィブランチのあるビルは旧北海道拓殖銀行小樽支店で5本の古典的円柱がカウンターに沿って立ち、初期鉄筋コンクリート造り建築の道内主要な遺構です。平成8年小樽市都市景観賞を受賞しています。
4. 北海道拓殖銀行小樽支店のある色内通りの北側には旧三井銀行小樽支店があります。この建物は曾禰・中條建築事務所が設計したもので、小樽では最初のSRC耐震構造で昭和2年に建てられた小樽市指定の歴史的建造物です。

## 記述問題

次の各設問に200字前後で文章で述べなさい。(簡条書きは不可)

1. まちづくり観光の対象となるものには「歴史的建造物を活かす」「人間を活かす」「自然を活かす」「歴史性を活かす」「産業を活かす」など様々なことが考えられますが、あなたはこれからの小樽にどのようなまちづくり運動があればいいと考えますか。純粹に小樽を憂う気持ちでお書きください。それが観光に結びつかなくてもかまいません。
2. 「最近増えている東アジアからの観光客に対して、一市民として貴方はどの様におもてなしをしたいと思えますか」
3. オタルナイは元治2年(慶応元年の説もあり)に「村並」となりますが、「村並」とはどのような制度か簡潔にのべてください。
4. 「おたる案内人・マイスター」の存在価値を高めていくにはどのようなことが必要だと考えますか。
5. 散策ガイドを実践する上で大切なポイントについて述べなさい。

## 総合記述問題

次の各設問に400字前後で文章で述べなさい。(簡条書きは不可)

平成20年10月、小樽市は、「小樽観光都市宣言」を決議し、より質の高い時間消費型観光のまちを目指す宣言をしました。

宣言には『「小樽観光」が更なる発展を遂げるためには、観光に対する市民意識の向上が課題である。』と書かれています。

「おたる案内人」マイスターを目指すあなたなら、この課題をどのように克服していきますか。その克服策を提案しなさい。